

# 概要報告

実施期日	7月29日(火)【午前】
部会名	小学校 社会部会

**テーマ** 『 児童が抱いた疑問を解決し、自らの生活を見つめなおしていく社会科を目指して 』

## 提案概要

- ・ 第3学年「さぐってみよう昔の暮らし」の学習を通して、地域のコミュニティーについて感じられる授業を目指した。
- ・ 子どもたちが「なぜだろう」と自ら考え、つきとめていく学習を目指した。そのために教師が教えすぎないように意識した。
- ・ 初めに地域の祭りから単元に入り子どもたちの学ぶ意欲を高めた。
- ・ 例大祭の特徴である山車と神輿の写真をB4用紙16枚をつなぎ合わせて用意し、クラス全員で細部まで見る授業を行った。
- ・ ゲストティーチャーを呼んで、祭りばやしを実際に体験させてもらった。
- ・ 教具の工夫・航空写真・ゲストティーチャー・体験などは、子どもたちの興味関心を高める。
- ・ 祭りの学習を終えてから昔の道具についての学習に入った。昔の道具は家庭によって知っているものに差があった。
- ・ 七輪とホットプレートを実際に使い、サツマイモを焼いて食べる活動をした。「ホットプレートは早くできる。七輪はおいしいし、焼けるのを待っている時間に話をしながら待つのが楽しかった。」とそれぞれの良さを感じていた。
- ・ 授業を通しての課題として子どもの意見を聞きすぎてしまい時間がかかってしまうこと。単発の体験・話を聞く活動はそれぞれ楽しいが、単元としてのつながりが薄いように感じた。

## 質疑概要

質問：三年生の「さぐってみよう昔の暮らし」で祭りを昔の道具の前に扱った理由はなんなのか。

回答：地域の実態から祭りを最初に扱った方が子どもの興味関心を引き、意欲が高まると考えたため。

質問：三年生で時間軸を持たない子たちに祭りを先に扱うのはどうだったのか。生活の変化(道具)の移り変わりを学習したほうが時間の流れがつかめるのではないか。

回答：子どもたちにとっては10年前も100年前も同じように昔としてとらえてしまう。祭りだけだと難しかったので、昔の道具を最初に行い、時間軸を捉えさせるという選択肢もあったと思う。

意見：なぜお祭りが始まったのかに加え、なぜ続けているのかを考えなければいけない。

意見：お祭りを続けている人たちの思いを知り、「自分もつないでいかなければいけない」と思えるとよかった。

意見：昨年の授業を経て、太鼓を始めた子がいるのなら、どうして太鼓を始めることにしたのかを聞いてみたい。

意見：地域に住んでいる一人としての意識が芽生えたのかもしれない。

意見：昔の道具を持っている家庭、父・祖父などがお祭りに参加している家庭がある一方で、関わりが全くない家庭もある。

意見：昔からその土地に住んでいる家庭、新しく引っ越してきた家庭、その条件が違う子どもたちをつなげていきたい。

意見：提案授業をするときに見る単元を絞ったら子どもの動きがよりわかりやすくみられるのではないか。

意見：なぜお祭りをするのかといえば、お祭りは家族が集まる場であり、コミュニケーションの場であるからだと思う。

## 研究協議概要

「テーマ：自分の地域にある素材をどのように教材化しているか。」ということをもとに7つのグループに分かれて話し合ってもらった。意図的にいろいろな地区が入るようにグループ分けして、それぞれの地区での地域素材の教材化について話し合った。最後に全グループが、キーワードを挙げながら発表した。

- ・ 人とのつながりをもとに体験・経験を通して実感をもたせたい。地域学習の目標は学習指導要領にもあるように、地域社会の一員としての自覚を持つこと、地域社会に対する誇りと愛情をそだてることである。そのためには地域に住んでいる人と出会い、その人たちの願いや思いを知ることが大切である。
- ・ 地域素材を見つけることは難しい。学区に差があり、子どもたちの興味をひくものがない学区では難しい。教師の教材化するための目が必要になる。地域の人とのつながりが大切になる。地域素材を教材化するには時間と労力が必要になってくる。
- ・ 比較・相対することで、自分の住んでいる場所が特徴的になってくる。自分が住んでいる場所ではあたりまえで気にもしていなかったことが、他地区では珍しいものという場合がある。それを知るためには、市内の他地区なども学習して、比較することが有効である。
- ・ 地域素材を教材化する例として「海洋教育」というテーマで学習を進めた話をしてもらった。課題解決学習として、海に生きている生き物を個人で調べ、海に携わる人々（漁師、観光客）の思いを知り、最終的には自分の住んでいる地域で観光について考えを深めていった。

## まとめ概要

- 体験を多く取り上げられていて良かった。
- 先生の考える授業を子どもの思考の流れに合わせて変えられていた。
- 子どもの思考の流れに合わせて注意してほしいのは、学ばなければならないことが抜け落ちてしまわないように、事前に指導計画を作成し、漏れが出ないように配慮する必要がある。
- 地域も祭りも人の思いがかかわっている。地域のコミュニティーを充実させていくことが必要である。
- その時だけのことを考えるのではなく、将来祭りがどうなってほしいかなど先のことを考えて授業ができるとよかった。先のことを考えることで、今の自分たちに何が必要なのかを考えるきっかけになる。
- 自分事として地域素材をとらえるためには、まずは「相手の立場に立って考える」という思考活動をさせたい。このことが、歴史学習の充実につながっていく。
- 体験的な活動は、想像を実感にかえる。ねらいを明確にして、充実した体験活動をさせたい。
- 自分の意見を可視化することは、思考の変容を見る上でとても大切なことである。指導者の評価につながるだけでなく、学習者にとっても、思考の深まりや広がりを自覚させることにもなる。